

令和4年 5月31日

前橋市長 山本 龍 様

前 橋 高 志 会
幹事長 笠原 久

電子書籍の追加導入に関する要望書

新型コロナウイルスの蔓延により、電子書籍の活用が急速に普及してきております。加えて、政府の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用により、電子書籍導入に踏み切る自治体が増えていると言われております。

本市においても、令和4年度当初予算における図書資料整備事業において、「電子書籍の導入」として、1,900万円の予算計上がされており、5,000タイトルの電子書籍が導入予定であります。しかしながら、現状において配信されている電子書籍の総タイトル数は10万タイトル以上ともいわれる中で、本市予定の5,000タイトルでは、あまりにも少なく、インパクトも弱いと考えられます。

そこで、今回の約17億円にも及ぶ交付金の活用として、電子書籍導入数を倍増の1万タイトルにすることを要望させていただきます。

理由としては、コロナ禍において、電子書籍のような非来館型のサービスの充実を図れば、ビジネスマンや子育て世代の方、介護をされている方など、日中の来館が困難な方々等への行政サービスの向上に繋がります。

最後に、導入により期待できる効果として、下記事項が考えられますので、ご覧いただき、是非とも電子書籍の導入数倍増にご理解いただきますよう、重ねて要望いたします。

記

1. 図書館側にとっては、書籍保管スペースは大きな問題ですが、電子書籍なら導入数が倍増しても、問題ない他、貸し出し状況など蔵書管理面も効率的に行え、負担は増えません。
2. 電子書籍の貸し出し期間である2週間を過ぎると、自動的に利用者は読むことができなくなりますので、職員の方々の未返却書籍対応等の負担は増えずに済みます。
3. クラウド型のサービスなので、図書館側が自前のサーバーや、専用のシステムを構築・運用する必要がなく、用意されたプラットフォームにパソコンからアクセスするだけで利用できるの
で、図書館側は、導入数が倍増しても費用や労力面での大きな負担は無く済みます。
4. 電子書籍は、図書館へ出向かなくても良いというメリットのほかにも、スマートフォンやタブレット端末、パソコンから365日、24時間いつでも、どこでも閲覧可能という利便性がある
他、何よりも返却が不要であり、返し忘れの心配が無いので、利用者の利便性が向上します。